

組織におけるレジリエンス理解のためのマルチレベルアプローチ：個人，チーム，組織のレジリエンス

菊地，梓

<https://doi.org/10.15017/1441006>

出版情報：九州大学，2013，博士（心理学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

論文審査の結果の要旨

本論文は、仕事に携わる人々が、想定外の事故や災害等の困難に直面した際に経験する精神的な落ち込みや職務モチベーションの低下の状態から、原状通りに職務を遂行できる状態へと回復していく力を意味する職務レジリエンスを育成し、強化する変数について、個人、チーム(部署)、組織の多層的な視点にたつて、組織心理学的アプローチによって明らかにした研究の成果をまとめたものである。広く社会からの注目を集める概念であるがゆえに、扱う概念に拡散と混乱が見られる学界と現場の現状をふまえ、関連する多様な研究分野の知見を整理して、職務レジリエンスに焦点を絞って明確な概念規定を行うところから始めて、人間の死と密接に向き合いながら職務遂行する医療機関の看護師を対象とした参与観察に基づく質問紙調査、さらには東日本大震災で壊滅的なダメージを受けた宮城県女川町で、震災直後から地域復興の活動を実践してきた会社で聞き取り調査を行い、それに基づく質問紙調査を実施して、レジリエンスを高めるために有効なストレス対処方略と職務遂行システムの特性を実証的に分析するとともに、管理者による日常的な組織目標の提示とその達成に向けた実践が生み出す社員のチームワークが、組織としてのレジリエンスにつながることを明らかにした。現状の研究における限界と今後の課題も的確に認識されており、今後さらなる研究の発展が期待される。これらの研究の成果は、学会においても高く評価されており、研究テーマは心理学の学術的価値が高いのみならず、現実の社会問題の解決に向けて有益な提言につながるものとしても評価できる。よって、本論文は博士(心理学)の学位に値するものと認める。